

# 株式会社 村上衡器製作所

## 国内トップシェアの技術で 教育・製造現場に貢献

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- メイドインジャパン



規格の一步先へ サブリグラム分銅

**業務内容**  
市場は世界規模  
認定事業者として公的証明書も発行

主に3つの事業を手がける。1つは小学校理科教育などで使う上皿天びんや工場などで使う電子天びんなどはかりの製造・修理・販売。2つ目は質量標準としての高精度な分銅の製造・販売で、製薬会社や自動車関連メーカーなどの製造現場において、はかりの品質管理のために使われる。3つ目の事業として定期的な校正サービスとして分銅・おもり・はかりの認定事業者が発行できるJCSSマーク付きの校正証明書の発行も行う。

海外にも輸出しており、台湾、香港などの東南アジア、イギリス、ドイツなどのヨーロッパ各国、さらに米国、オーストラリアなど世界各国の教育機関や病院、研究所に顧客を持つ。

**強み**  
技術力が品質のカギ  
社内連携で顧客のニーズに応える

同社の強みは職人技とも呼べる高い製造・校正能力にある。職人の手による天びん製造における最終調整や、分銅製造でのパツピングなどマニュアル化できない部分が品質のカギとなる。さらに最終的に質量を合わせる工程では、E2級の1mgの分銅に対しての許容範囲を社内ですべて1,000分の3mgに設定しており、長年培った職人の技と感覚で調整する。

製造業のアウトソーシング化が進む現在もプラスチックの射出成形などを社内で行い、上皿天びんの皿を成形するなど高い内製化率を誇る。営業と製造現場が同じ場所にあることで連携が取りやすく、顧客に応じた規格の特注品にも対応できる。

**独自技術**  
現場のニーズに応え  
規格を見据えた技術を開発

同社の独自技術として国際法定計量機関

(OIML) や分銅に関する国内規格で定める最小質量の1mgよりさらに小さな質量を検査できる「サブミリグラム分銅」がある。研究室や製造ラインで使用している電子天びんなどは、1mg未満の範囲の測定能力を有する機種が多く存在し、その性能管理のために必要な1mg未満の質量標準がなかったため、同社は規格に先んじて「0.5」、「0.2」、「0.1」mgの標準を実現した。

**今後の展望**  
顧客の費用対効果を考え  
一歩踏み込んだ事業へ

ものづくりの経験やこれまでのデータを活用し、はかりの検査や分銅の管理に関する顧客へのアドバイスに注力する。例えば、3年に一度の頻度で提案していたはかりや分銅のメンテナンスを「頻度をあげる」のではなく、蓄積したデータに基づき顧客毎に最適な頻度を提案できるようにするなど顧客に寄り添った助言をしていく。

人材開発にも力を入れる。技術部門では、はかりや分銅の製造・校正で担当が分かれていたが、担当を超えたクロスオーバーによる技術伝承で一人の人間ができることを増やす。営業部門も、村上昇社長が講師となり分銅の規格・校正など、数値的な確率統計論の社内講義を行うなどより知識を深めていく。



機械式上皿天びんMS-100



精度管理に使う標準分銅

### 当社の歴史



明治39年、村上佐助がはかりの製造・販売を個人事業として始め、以来質量の計量器の製作に携わっています。「規格を遵守する技術力」を企業理念に、昭和30年代頃までは機械式ばかりを、現在は小学校教材向けの上皿天びんや製造業界向けの質量の標準分銅の製造や校正サービスが主力事業です。上皿天びんの製造・販売は国内トップシェアを誇ります。

代表取締役 **村上 昇**さん

<http://www.murakami-koki.co.jp/>

大阪28 | ISO 9001

#### 主な事業内容

精密衡器 (はかり・分銅等) の製造・販売・校正・検査

#### 主な取引先(納入先)

製薬メーカー、自動車関連メーカー、食品加工メーカー、計測機器商社、小学校教材商社

- 住所 〒535-0005 大阪市旭区 赤川2-10-31
- TEL 06-6928-7571
- FAX 06-6928-1099
- 創業 明治39年2月
- 設立 昭和23年5月
- 資本金 1,000万円
- 従業員 32名